

『話し合い活動を通して、自分の考えを発展させるとともに、自己指導能力を育む』授業

教師の課題提示に対して、「自分たちの生活をもっとよくしたい」といった思いを持ち、話し合い活動を通して「ここに原因があるのか」「こんな解決方法がいいかな」と原因を追求し、解決方法を考えていく子ども。その上で、「私は班長として班のみんなに声を掛けていくよ」「僕は丁寧に雑巾掛けをするよ」と実践の意欲を高めます。

学級活動(2)「日常の生活や学習への適応及び健康安全」では、課題に対し、子ども自身が努力目標を決定し、主体的に取り組んでいくといった自己指導能力を育むことを目的としています。そのため、一人一人の子どもが自分のこととして課題を捉え、考えることができるよう、教師が意図的、計画的に指導することが大切です。また、話し合い活動では、学級の意見をまとめるためではなく、友達の考えを聞いたり、発言したりして、多様な考えを材料に自分の考えを発展させていくための話し合いにしましょう。

ポイント 1

子どもが自分のこととして課題を考えられるような仕掛けを考える

話し合い活動を効果的に進めるためには、課題とする事柄に子ども自身が問題意識を持つことが重要です。他人事ではなく、自分にも関わりのある課題として子どもが捉えることができるようにしていきましょう。

そのためには、事前に実態調査を実施して結果をグラフや表で示すこと、日常の子どもの様子を写真や動画で記録して見せること、日常生活での子どもの気付きを作文や日記で紹介することなど、具体的に提示することが有効です。

ポイント 2

課題の解決方法を一人一人が考える話し合い活動を設定する

話し合い活動では、一人一人の子どもが自分の普通の生活を見つめ、課題の解決や対処の仕方、自己目標を考えます。その際、子どもの生活経験や発想の違いを生かして多様な解決方法を考えられるようにしましょう。その上で、子どもが自分に合った方法を見付け、自己決定につなげます。「その方法なら私にもできそうだ」といった実感を伴った子どものつぶやきが聞こえる話し合い活動にしたいものです。

また、子どもが主体的に解決や対処の仕方を考えられるように、必要な情報を教師から提供することが効果的です。

ポイント 3

継続的な見届けと価値付けで、実践の日常化を図る

子どもに「自分もやればできる」という自信を持たせるために、子どもが自分で決めたことを日常生活で実践できているか、継続的に見届け、価値付けることが大切です。そうすることで、子どもの自尊感情は高まり、実践の日常化を図ることができます。

具体的には、子どもが目標の成果を一定期間記録したものについて、みんなで振り返る話し合い活動を行ったり、記録を掲示したりして、子どもが互いの成果やよさを認め合い、励まし合うことができるようにしましょう。

また、教師は状況に応じて、個別に称賛や励ましを行うことで、努力の成果を価値付けたり、個々の努力によって学級全体が成長していることを伝えたりするとよいでしょう。

実践事例(小学校4年生)

題材 「学校をピッカピカにしてみよう」
学級活動(2) エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解

本時のねらい 自分たちの清掃活動の実態を見つめ、清掃活動の必要性を話し合う活動を通して、日常の清掃活動の実践意欲を高める。(集団活動や生活への関心・意欲・態度)

本時の展開

段階	主な活動内容
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなの清掃活動の様子をビデオで見てみよう。 <学級の清掃活動の様子(各清掃場所を撮影)> <ul style="list-style-type: none"> ・富士雄さんは隅々まできれいにしているね。 ・でも、多くの人は何となくやっているという感じだよ。 ○アンケート結果を見てみよう。 <清掃活動に関するアンケート結果> <ul style="list-style-type: none"> ・できれば清掃をやりたくないと考えている人が多いね。 ・つい遊んでしまうと答えている人も多いよ。
さぐる	<ul style="list-style-type: none"> ○どうして清掃活動をやりたくないという人が多いのかな。 <ul style="list-style-type: none"> ・やっぱり清掃は面倒だから。 ・少しくらいごみが落ちていても勉強はできるから。 ○これからの清掃活動をどうしていこうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・今までと同じでよい。 ・このままではいけない気がする。 ○美化委員長の話をビデオで見てみよう。<美化委員長の話> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生は学校全体のことを考えて清掃をしているんだ。 ・私も美化委員長さんのように、「君たちのおかげで学校がきれい」と校長先生から言われてみたいなあ。
見付ける	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなは今までと同じでよいのだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・今までだって一応自分たちの場所はやってたんだけどなあ。 ・それじゃあだめだよ。6年生の考え方は大切だと思うよ。 ・みんなで気持ちよく過ごせるようにしようよ。 ・褒められるくらいきれいにしてみるとすっきりするかな。 ・「がんばっている?」と声を掛けていったらどうだろう。 ・今までよりやる仕事の一つ増やしてみたらどうだろう。 ・清掃活動が終わったら、私がしっかりできたか確認する。 ○これからの清掃活動で自分の「これは大事にしたい」ことを決めよう。決まったら「がんばりカード」に記入しよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・私は友達にも「ここを一緒にやろう」と声を掛けていく。 ・私は班長だから終わったら必ず班でチェックするようにする。 ・僕は教室の雑巾掛けを担当しているので、棚をふくだけではなく棚の整理も併せてやる。 ○「がんばりカード」が記入できたら、班で見せ合おう。
決める	

学級活動(2)では、子どもに共通した課題として、個に応じた実践されるものを取り上げます。学級活動(1)との違いを踏まえて、教師が意図的、計画的に指導することが大切です。

教師が事前指導として、ビデオによる記録とアンケートを行っています。映像とアンケート結果から子どもは自分のこととして課題を捉えていきます。また、アンケート実施の際に、題材を予告することにより、子どもが関心を高めて本時に臨むことができます。

子どもが主体的に解決や対処の仕方を考えられるように、必要な情報を教師が提供しています。内容に応じて、養護教諭、栄養教諭とのTT授業や、地域の方等を招いた授業も有効です。

多様な解決方法を話し合うことを通して、子どもが自分に合った解決方法を見付けています。

事後指導として、努力を互いに認め合い、励まし合うために、「がんばりカード」を毎日記入し、帰りの会で子ども同士が一人一人のよさを振り返る話し合いをします。その際、教師による励ましや評価も行い、子どもへの確かな価値付けをしていきます。

「話し合い活動を通して、学級を充実させるとともに、自治的能力を育む」授業

「学級でこんなことをやってみたい」「こんなことをやってみたらどうだろう」と学級活動委員会からの提案を受け、「こちらの意見の方がいいかな」「みんなが納得できる意見を選ぼう」と折り合いを付けながら学級での生活を充実させるために話し合う。そして、「みんなで力を合わせてやろう」と決まったことを協力しながら実践していく子ども。

学級活動(1)「学級や学校の生活づくり」では、話し合い活動を行うことを通して、よりよい生活を築くために集団としての意見をまとめたり、適切な決まりをつくらしたりするなど、子ども自身の自治的能力を育むことを目的としています。

中学校では、小学校での話し合い活動の取組・実践を踏まえ、子どもがより主体的に話し合い活動を行えるようにしていきます。

ポイント 1

日頃の学級の様子から子どもにとって切実な課題を取り上げる

一人一人の子どもが、目的意識や問題意識を明確にして話し合い活動に取り組むことが重要です。そのためには、学級の代表による学級活動委員会(班長会議等)での議題の選定を重視していきましょう。

議題の選定では、①学級全員で協力しなければならない内容か、②自分たちで具体的に実行できる内容か、③解決の方法に創意工夫の余地があるか、④学級や学校生活をよりよいものにしていく内容か、などの条件を考えましょう。

ポイント 2

考えを深め、自分たちで折り合いを付ける話し合い活動を設定する

考えを深めるために多様な意見を分類・整理し、比べ合うことによって、よりよく取り組むための方法を探っていくことができます。それぞれの意見が違っていれば、提案理由に立ち返り、「それぞれのよいところを合わせたものにできないか」「それぞれのよいところを取り上げて新しいものが生み出せないか」などの観点から話し合うとよいでしょう。

その際、小グループの話し合いだけで話し合い活動を終わらせたり、話し合いの効率化のために教師が話し合いの折り合いを付けたりすることのないようにしていきます。子どもが十分納得できる話し合いをすることにより、その後の活動が活性化します。

話し合い活動を通して、折り合いを付ける方法を身に付け、自分たちで意見をまとめたり、決めたりすることができる姿を目指しましょう。

ポイント 3

多様な意見を言い合える支持的風土の醸成を図る

考えを深める話し合い活動を行うためには、互いに自分の考えを自由に表現でき、認め合い、高め合うことができるなど、学級内に支持的な風土が醸成されていることが大切です。

支持的風土の醸成には、日々の教育活動全般にわたり、一人一人の考えを大切に意識を子どもと教師が共有している必要があります。学級活動では、互いの意見を生かし尊重することが学級の合意形成を促し、効果的な集団決定につながることを、子どもが実感できるようにしていきます。

実践事例(中学校2年生)

議題 「友達に対する声掛けを増やすには」
学級活動(1) ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
本時のねらい よりよい学級を目指し、友達の見解を聞きながら自分たちの実践を具体的に考えることができる。
(集団や社会の一員としての思考・判断・実践)

本時の展開

段階	主な活動内容
活動の開始	1 開会の言葉 2 学級活動委員の紹介 3 議題の確認 4 提案理由の説明『「学級目標は実現できていますか」アンケートの集計』 全員で話し合っただけで決めた学級目標「ともに輝け!34人の2年3組」の実現のため、5月末に「学級目標は実現できていますか」アンケートを実施しました。その結果、私たちのクラスは、「困っている友達に声を掛けられたい」と回答した人が4割でした。これではともに輝くクラスとは言えません。そこで、クラスのみんなが友達との関わりを強めるために、友達に対する声掛けを多くしていきたいと考えました。その結果、このクラスの雰囲気がよくなり、ともに輝く気持ちが高まっていくと思います。友達に対する声掛けについて、クラス全員で何が実践できるか考え、実行できたらよいという理由から、今回の議題を提案しました。
活動の展開	5 話し合い (1) なぜ、困っている友達に声掛けができないのだろうか。 ・まだクラスになじんでいないから。 ・きっかけがつかめない。 ・何と書いてよいかわからない。 (2) 6月に全員で実践していくことを決めよう。 ・思いやりの言葉掛けをつなげるリレー……① ・一日一回声掛け運動……② ・優しい言葉掲示……③ ・友達の良い言葉見付け……④ ・あいさつ運動……⑤ ・どれもいいものだね。なかなか決めきれないなあ。 ・⑤は学校で取り組んでいるから入れなくていいよ。 ・①より②の方がみんなで意識しやすいなあ。 ・①は②に併せて取り組むことができないかしら。 ・そうだ。「思いやりの一日一回声掛け運動」としたらいいよ。 ・優しい言葉を伝えた人を褒めていくのもっとやる気が出るね。 ・④の報告から③の優しい言葉の紹介掲示を作成したらどうかかな。 (3) 実践するための役割分担や工夫を考えよう。 ・思いやり一日一回声掛け運動は朝の会で司会が呼び掛けよう。 ・④の報告は帰りの会のプログラムに入れていこう。 ・③の掲示の係を決めよう。 6 決定事項の確認 ・思いやりの一日一回声掛け運動は、毎日みんなで取り組む。 ・優しい言葉を掛けられた人の報告から紹介掲示を作成する。 ・明日から取組をスタートさせる。
活動のまとめ	7 自己評価、感想の記入 8 教師の話 「静子さんの併せて取り組むという意見はよかったですね。静子さんの発言から、みんなも意見を組み合わせるよさに気付きました。また、学級活動委員はアンケートの作成・集計や司会などの取組をありがとうございました。放課後にもがんばってくれましたね。これからみんなで2年生の終わりに『ともに輝けたね。このクラスでよかった。』と言えるように取り組んでいきましょう。」 9 閉会の言葉

子どもの主体的な話し合い活動を促すためには、教師の適切な指導の下に行われる事前指導が重要です。

本事例では、①アンケートを活用した問題の発見、②学級活動委員会による議題の選定と計画の作成、③学級全員に対する議題の提案と提案理由の提示、④ワークシートへの個人の考えの記入が、本時の前に実施され、問題の意識化が学級全員に図られています。

提案理由は話し合いの根拠や、事後の実践活動における振り返りの視点になるべきものです。①学級の実態、②話し合う必要性、③問題の焦点化(解決したら私たちはこうなる)などの内容を入れて設定しましょう。

多様な意見を分類・整理し、比べ合うことにより、それぞれの意見のよさに気付きます。そのため、本事例も多数決は行わず、提案理由を根拠に複数の意見から自分たちで折り合いを付けて決定しています。

事後指導として、友達と協力して取り組んだり、互いのよさや頑張りを認め合ったりする場を設けることは、よりよい人間関係を築くことにつながります。例えば、互いに見付けたよさや頑張りをメッセージとして渡すことは中学生でうれしいものです。